



問 社会福祉協議会の施設の見直しを 答 総合的に検討していく

問 社会福祉協議会の施設は手狭であり、当面の対応は。

町長 大木町社会福祉協議会は、本町の福祉増進に大きく貢献しており、近年、高齢化が急速に進行する中、その役割はますます大きくなっている。幅広い事業活動を展開するための環境整備を図ったが、現在は、やや手狭になっているが、当面は、現在の施設を有効活用することで事業の実施は確保されると考える。

問 同じ部屋をほかの団体と共同使用しているため時間に制約されがちではないか。

福祉課長 健康福祉棟の部屋の共同利用は、互いの事業の推進に支障が生じないよう、あらかじめ十分な事前協議、打ち合わせを行い、また、他団体の利用があった場合は、利用面の工夫を講じている。



問 検診日には駐車場が足りない状況であり、受診者や福祉バスの出入りに困ると聞く。

福祉課長 検診日の駐車場の不足の対応として、アクアスの駐車場利用で対応し、福祉バスの車庫前にカラーコーンを設置し、張り紙をすることでより通行スペースの確保を図っている。

問 災害時のボランティアの拠点づくりも出来ない。

福祉課長 災害時のボランティアの拠点づくりは、健康福祉棟は町の中央にあり、大木町防災計画では、福祉避難所としても指定されており、災害時におけるボランティアセンターとして活用可能であり、少なくとも現時点においては最良の拠点になるものと考えている。

問 もみじ倶楽部の活動にも手狭であると聞く。

福祉課長 もみじ倶楽部の施設の利用は、26年度から開催日を拡充したため参加者が分散し、多い日で13人程度に減少しており、現在では十分なスペースが確保された状態に改善されたものと認識している。

問 アクアススポーツクラブも現在手狭になっており、先々、別に施設が必要になってくるのでは。

町長 中長期的に今後アクアスの温泉施設のあり方を検討していく。町の中心施設でもあり利便性が高いので、災害時の場合も含め検討していく。



アクアス

問 国は、米価の下落対策として、稲作の省力化の一環で水稲直播き機の導入等に対する助成を打ち出したが、大木町では採択要件に合わず、ほとんどの稲作農家が対象外であった。町単独の導入助成は。

産業振興課長 町の基本的な考え方として、国・県では対応できないきめ細かな地域課題に対応する施策を講じていくこと。稲作を始めとする土地利用型作物は、仮に町単独での支援を検討するとしても、国の政策の考え方と軸を一にする。その必要性も含め、関係機関や生産者の意見も聞きながら、今後検討したい。

問 町は、認定農家や集落営農法人など永続的な営農が期待できる者に限定して支援すると言われるが、支援対象を限定せずに、農業用機械導入事業の復活は。

産業振興課長 農家、また関係団体等、特にJAと連携して、こういった支援のあり方が望ましいかも含めて検討したい。